

文献

抄録

RIC-Wu カテーテルキット (古い問題に対処した新しいデバイス)

本論文は Rehabilitation Institute of Chicago (RIC) で開発された導尿用カテーテルキットについての紹介である。

カテーテルによる導尿は膀胱障害 (特に脊髄損傷による) のある患者の管理の基本的方法である。従来行われてきた方法では、滅菌法やカテーテルの挿入が煩雑で技術を必要としていた。今回 RIC で開発されたカテーテルキットは使用が簡単であり、充分な手の機能のある患者ならば自己導尿も可能である。

RIC-Wu カテーテルキットは以下の構造を有している。滅菌して両端を密封した透明な柔いプラスチックチューブの中にゴムカテーテルが入っている。プラスチックチューブはさらに三部分に分かれている。上部：滅菌部として使われ、さらにカテーテルに潤滑性を与える。中央部：カテーテル本体が入っており、使用時には集められた尿を貯める。底部：検査用の尿を貯める。検査時にはこの部分のみを切り離すことが可能である。

このカテーテルキットの臨床試用により幾つかの利点

が明らかになった。1. 患者にとってのメリットは、カテーテルの挿入が簡単で短時間で使用できる。初心者でも3回目より5分で可能である。車椅子上でも使用できるので、トイレなど、どんな場所でも使用できる。2 ポケットサイズで、かつ安価である。3. 病院スタッフではカテーテル挿入のため患者をベッドへ移したりする必要もなく、使用法も簡単に学習できるため導尿に関する全ての時間の軽減ができる。4. カテーテルに挿入による感染の危険性は、従来の方法と同じか、それ以下である。

本論文では、上記の外に使用法について写真を使って解説してある。また従来の方法との対照実験についても述べてあり、このカテーテルキットの有利性を示している。

Yeongchi, Wu, MD., et al: RIC-Wu Catheter Kit: New Device for Old Problem, Arch. Phys. Med. and Reh. 61(10): 455~459, 1980.

(東京大学付属病院 作業療法士 山口 昇)